令和５年度　　学校評価総括（計画）表　　香芝市立下田小学校

前年度の成果と課題	教　育　目　標	主体的に学び続け、心豊かにたくましく生きる子どもの育成 ～まなびあい・そだちあい～	総合評価
・コロナ禍における様々な制約を受ける中、学校での様子について、情報発信を充実させる必要がある。 ・感染症対策を講じながらの教育活動であるが故に、指導体制や学びの工夫が求められる。 ・自ら進んであいさつできる児童が少ないので、粘り強い指導が必要である。	運　営　方　針	生命と人権尊重の精神を基盤とし、社会の変化に主体的に対応できる資質や能力を備え、人間性・創造性豊かな児童の育成を図る。	B
	本年度の重点目標	（１）「わかる」「できる」を実感させ、学習意欲の向上と学習規律・学習習慣の確立を図り、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を目指す。	
		（２）ありのままの自分を大切だと思う気持ちと、誰かの役に立ちたいという気持ちが調和した自尊感情を醸成するとともに、生活規律を身に付けさせる。	
		（３）進んで運動しようとする運動習慣の育成に努めるとともに、望ましい食習慣と自己管理能力を身に付けさせるための食育の充実を図る。	

	評　価　の　観　点	評価		成果と課題（評価の分析）	次年度への課題と改善策等	学校関係者評価
学校運営	①教育目標や指導の重点を全職員が共通理解し、それらの実現に向けて取り組んでいる。	B	B	年度当初に共通理解を図るとともに、行事等の要所をポイントと捉え、再確認する機会を設定することができた。	・円滑な学校運営を行うため、校務分掌会議や学年会議だけでなく、企画委員会を充実させる必要がある。次年度は計画的に企画委員会を行う。 ・学校運営協議会と学校教職員の連携を強化するため、各校務分掌の主任が学校運営協議会委員と直接意見交換できる場を模索する。また、学校運営協議会の活動内容やコミュニティ推進委員会の方向性など、広報活動のあり方についても検討を重ねる。 ・業務の効率化、行事の精選、ペーパーレス化等、働き方改革に向けた取組を推進していく。	・学校運営協議会やコミュニティ推進委員会が、実質的・実働的な組織となるよう進めていかなければならない。次年度はここ数年開催できていなかった「コミュニティ協議会」を開催するために、ねらいを明確にして計画を進めたい。 ・学校運営協議会とPTA本部役員がもっと連携し、意見交流ができる場があれば、さらに子どもたちの為に必要な活動をすることができる。 ・教職員の働き方改革を是非とも進めてもらいたい。
	②校務分掌会や学年会を適時に実施している。	A		主任がリーダーシップをとり、定期的に会議を開き、密に情報共有と協議を行うことができた。必要に応じ、臨時的なミーティングを行うことができた。		
	③校務分掌において、前年度の総括・課題等をふまえ、新たな提案や改善をしながら取り組んでいる。	B		コロナ禍が明け、改めて学校としての目指す方向を確認しながら、行事をはじめとした教育活動の充実・改善について熟議を行い実践することができた。		
	④家庭への様々な啓発活動を通して、学校や学年・学級の取組を保護者に伝えている。	A		学校だよりを中心に情報発信に努めた。その他の媒体による広報等について更なる充実が求められる。		
	⑤地域や保護者、コミュニティからの意見を学年や分掌で共有し、改善に活かしている。	B		学校運営協議会やPTA本部とはしっかり連携をしながら教育活動の充実・改善に活かすことができた。管理職だけでなく、全職員での連携を強化したい。		
	⑥児童や学校の実態をふまえた特色ある教育課程が編成されている。	B		児童に身に付けさせるべき力を鑑みての教育課程の編成という点では、更なる工夫の余地がある。		
	⑦働き方改革の推進に向けて、学校の業務改善に取り組んでいる。	B		職員の時間外勤務時間を縮減することができたが、更なる業務の効率化が必要である。		
学習活動	①下敷き「学習ルール６」を毎日携行させ随時利用し、意識の徹底を図っている。	B	B	下敷きを配布・活用し、学習規律の徹底を図っているが、意識付けが足りない面があるのは否めない。来年度は教室掲示も含め、年度当初だけでなく、折を見て立ち返ることをする。	・学習規律については、全学年での統一的な指導と継続的な指導が欠かせない。職員が同じ方向性で学習指導にあたる必要がある。次年度は、学習に臨む態度の基本となる「時間を守る」という点について徹底して指導していく。 ・図書ボランティアの方からは「読み聞かせ」「図書室の環境整備」など、大きな助力をいただいてるが、これを児童の読書意欲向上につなげるための具体的取組が必要である。 ・道徳の授業について、今年度さらに見直しを加えた指導計画や、新たに作成した別葉に基づき、実践を積み重ねていく。	・個別の児童の課題、学年としての課題等、様々あると思うが、成長段階に合った指導を粘り強く進めてほしい。 ・読書意欲の向上は、児童の書く力とも深い関連があるように思う。そのためにも、もっと文字に触れたり、書いたりする機会を設けていただきたい。再開した図書ボランティアによる読み聞かせ等の取組を中心に、さらに読書好きな子どもたちを育ててもらいたい。それが書く力にもつながると考える。
	②家庭学習充実のため、毎日、何らかの適切な課題（宿題）を与えたり、学習活動に活かしたりしている。	A		どの学年においても宿題を出し、児童の学習する習慣が身に付いてきているが、系統性や内容について検討を重ねる必要がある。		
	③「わかる」「できる」ための指導を工夫するとともに、わかりにくい点があれば質問しやすい環境がつくられている。	B		児童の多様性を理解した、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実という点に着目した授業改善が必要である。		
	④めあてを明確にした授業づくりを展開している。	B		導入段階におけるめあての設定と終末段階におけるまとめ・振り返りは、概ね実践できた。授業研究においても、めあてを明確にした授業づくりについて協議を行うことができた。		
	⑤様々な読書活動を通して、読書が好きになる子どもが増えている。	B		図書ボランティアの助力を得ながら、環境整備等に努めた。読み聞かせ等の活動も復活したが、今後さらに読書に魅力を感じられる取組を模索していかなければならない。		
	⑥子どもの心に響く道徳の授業にしていくための指導法の工夫を積極的に行っている。	A		あらためて指導計画の見直しと、教育活動全体の中での道徳教育を意識するために「別葉」の作成を行った。また、学校長から授業づくりの為の通信を、教職員へ定期的に配布した。		
生徒指導	①「あいさつ」をされる前に自分たちからする児童が増えている。	C	B	進んで大きな声であいさつできる児童は、少しずつ増えているが依然として少ない。児童は高い自己評価をしているが、教職員としては物足りなさを感じている。	・あいさつや清掃については、学校全体での統一的な指導が、より必要であると考えている。教職員が強く意識をもって取り組むとともに、学習指導と同様、定期的な進捗評価を行い、指導にフィードバックさせていく。 ・生徒指導の根幹となる学級経営について、教師の技量向上を目指して研修と実践を積み重ねていく必要がある。	・あいさつする子は多いと感じる。「ニコニコあいさつの日」に学校運営協議会でも協力できれば、あいさつの推進につながるのではないか。
	②それぞれの清掃場所の清掃の仕方を具体的に伝えている。	B		清掃指導については、具体的な仕方や責任をもってやり遂げることの大切さを含め、更なる徹底が必要である。		
	③「わたしたちのくらし」や下敷き「生活ルール５」等を繰り返し活用し学校の生活ルールが身に付いてきている。	B		学習規律の徹底を図っているが、まずは学級での指導が土台となるので、統一的に取り組んでいく。全教職員が同じ基準で指導できるように徹底していく必要がある。		
保健指導	①運動遊びに関心をもち、進んで体つくりに取り組む子どもたちが増えるように、取組の工夫が行われている。	B	B	コロナ禍で中止していた各種体育的行事を再開することができた。日々の体育授業や運動遊びについて、さらなる充実を図っていく必要がある。	・体育的行事の再開とともに、より運動好きな児童を育てるべく、体育的行事の改善と更なる充実を図る。 ・食の指導については、個々の児童の状況を鑑みながらも、継続して進める。	・コロナ禍から徐々に元の学校生活に戻っていく中で、児童にとって何が大事なのかを今一度、整理しながら進めてほしい。
	②指導の工夫等により、望ましい食習慣や保健習慣が身に付いてきている。	B		給食時間だけでなく、教科等と連携した食育を実施することができた。児童の偏食・残食・食への関心の低さは依然としてある。		
人権教育	①いじめや日頃のトラブル・子どもの悩み等について、児童の話に耳を傾け、丁寧に内容をつかみ、共有化している。	A	B	児童がしんどさを抱え込まず、相談しやすい環境を整えることができた。教員間における情報共有も大事にしながら、取組を進めることができた。	・教職員が高いアンテナを張ることは言うまでもないが、よりその感度を高めるため、些細な変化についても細目に情報共有する体制を整え、児童の悩みやいじめの早期発見につなげる。	・困ったことを先生や大人に話すことができているという児童の評価が高いのは良い傾向。話をよく聴き信頼関係を築いている表れ。先生が受け皿の心を持っていることは大切。継続してほしい。
	②自尊感情と相手を思いやる心を育む具体的な取り組みを行っている。	B		児童の実態に応じ、重点教材を用いながら、各学年での取組を進めた。		
特別支援教育	①一人一人の学び方の違いに配慮した指導や支援をしている。	B	B	個別のニーズに応じながら、職員間における情報共有を密にし、指導・支援を行うことができた。	・特別支援教育については、これまで以上に学校全体での支援体制構築が求められる。サポート委員会を軸としながらも、児童理解の場を充実させ、協働体制を強化していく。 ・これまで学校が培ってきた特別支援教育を大切にしながら、児童個別の課題に応じた支援教育を進めていく。	・子どものニーズが多様化する中、関係機関や保護者とも連携を密にとりながら、サポート体制を強化してほしい。
	②校内サポート委員会が適時に行われ、児童の理解や指導に活かされている。	B		月に一度、定例のサポート委員会を開催し、児童理解を図ることができた。		
特別活動	①学級活動・児童会活動・委員会活動・集会活動が児童の主体的・自主的な活動として行われている。	B	B	児童が主体的に活動に取り組むことができるよう、指導計画を工夫しながら進めることができた。	・友だちとの関わり、他学級、異年齢への関わりを大切にした様々な取組を再開していく中で、児童に身に付けさせたい力を教職員が明確に見据えたものを本校のスタンダードにしていく。	・6年生を送る会は全校児童が集まり、内容も素晴らしく感動的であった。子どもや教職員の頑張りがよく表れていた。ようやく可能となった「対面」という形を大切にしてほしい。

評価はA・B・C・Dの４段階